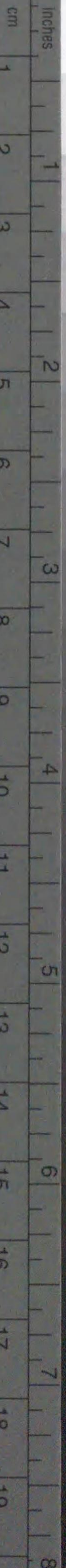


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



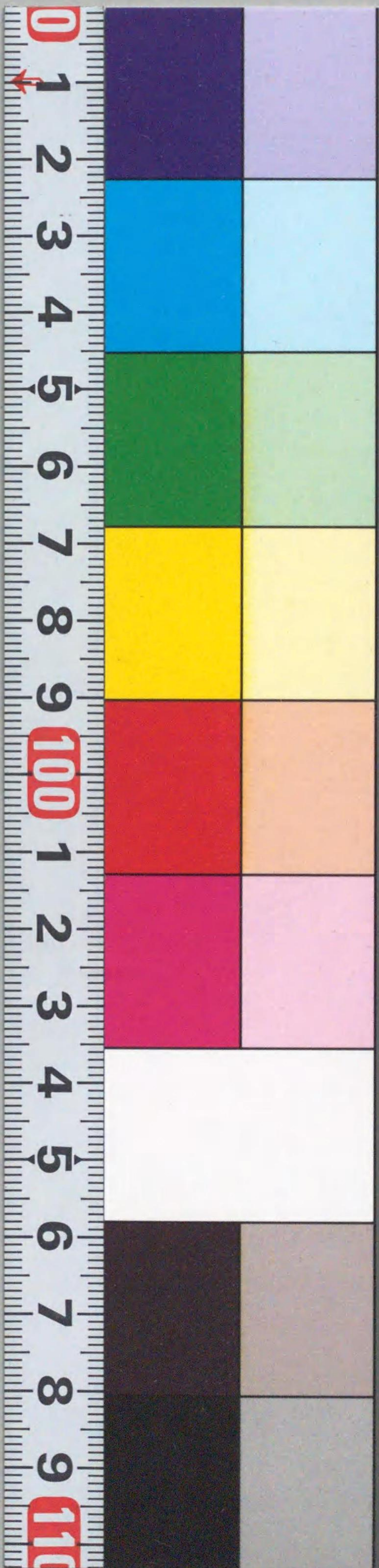
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



586.7
O993k
W

機織彙編

四

586.7
0993k



機織彙編卷之四

錦織製方

一初蚕いちさより取上る糸をまとし踏ひ並り、次はつ獲へ取
 垂し其糸を水に湯めておろし二本合し等し取
 つむしをて毛を捻りまうら獲へ取る之跡先の糸
 を留ておろししておろを三ツわき小編たりま
 より箕と外あし煉ねり煉上て水にて濯き乾し上
 染る之染上又おろして濯きおろしとき干上る之
 色よりりて天日と曝ひし甲ハ晴天又干上げ紺花色
 と日し薄淡黄又ハ色かよりおハ蔭干かげ之右干上げ
 て糊かとする之を糊を堅糸の糊ハふのりを用也横糸
 の糊ハ色よりりて紺くろを糊又こびのりを用也又葛
 と用也るあり大概たふりふ糊まり糊の引方ひは傳

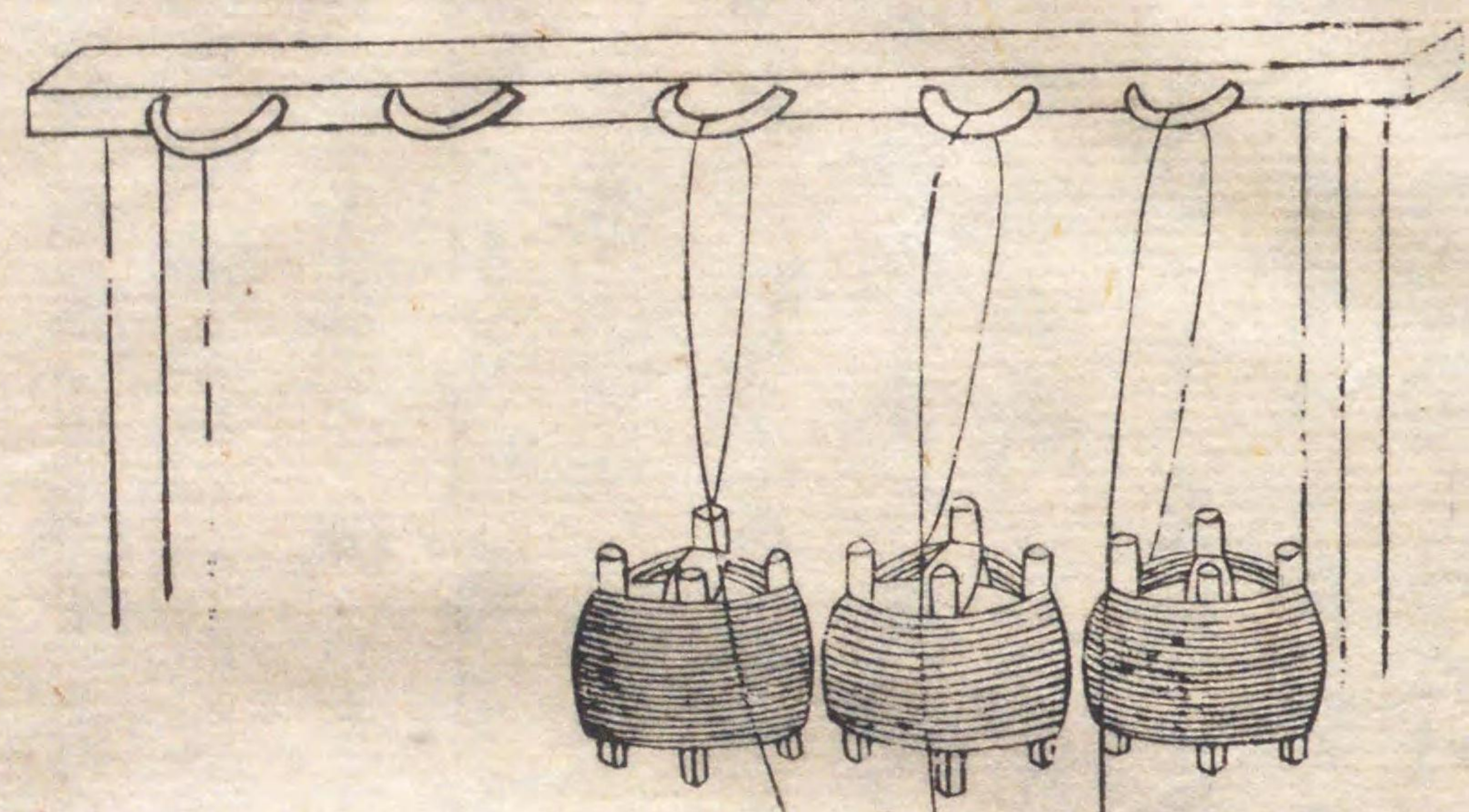


寄贈
下鳥正憲

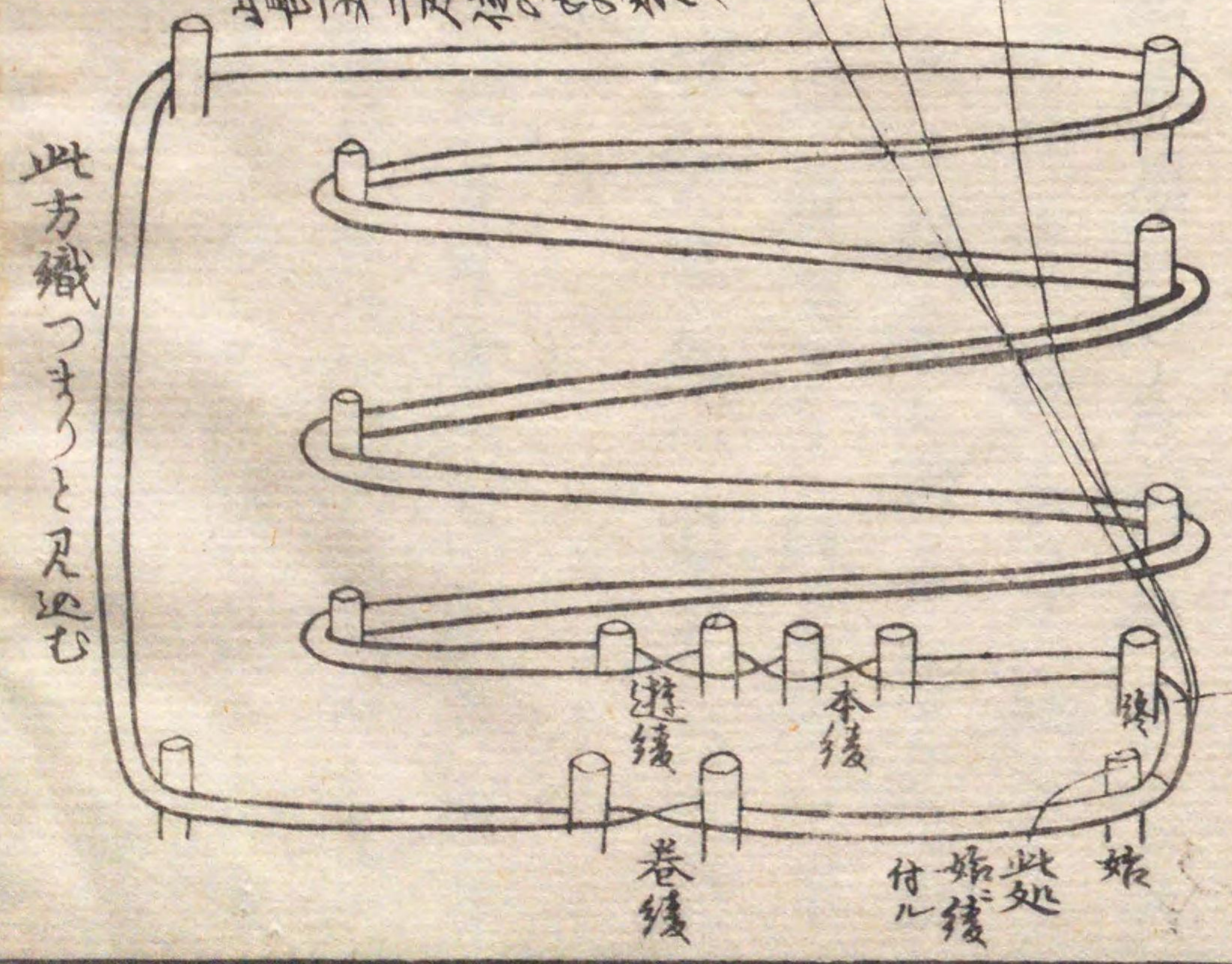
562869

一三本よりあるへ三本の標を糸敷と定置家之からその
糸ハ別と延るあり尤本緯の糸よりハ少く細くからそ
糸ハ不煉生糸とて深るあり延流りて糸を切り本緯
の方よりくさり又あるあり夫より尻緯の方より巻初る之
をけんちやうへ荒おさと付膝の本へ糸と巻付あり

錦類 堅糸経方



此最上ニ五ツの糸



織 紙 口

一本機と引込夫より伏機と引込一箴と引通次あり
都合三度と通す之箴と引通一其系をつまぎの本へ
そくい糊をよよく張付る上と紙をて押へるを
能乾すべし但しえうり織付ぬれは日し穢組ぬれ
系をつまぎ引通すあり系のつまぎ方のめ字と踏み
るに傳

一横系ハ堅系の如くある系と五本位一筋として織
るを毛生系の薄糊と用ひ何機までも能く糸ハ生
糸と横と織る之然も生系の弱あり強くするを煉
ると知べし花紋と出る所の横系ハ煉糸を糊を
一横と幾通りも色を替へ換振織るよ横経糸と印
あり是ハ紋と捨入時と中と附るこ
一紋と織杆と地と織杆ハあり分け並あり

一右の仕方より地横斗本綿と織り紋へ緋糸と織ハ則
綿錦と名付るあり

一箴柄の裁目ハ四百目位一尺五寸幅箴廿八より
あり綾取ハ十四枚 木ざと六枚伏ぐせ六枚
からとの綾五枚あり 箴一月へ堅系三
本入外よりからとの系一本都合四本入あり踏竹ハ

六本地合ハ大方堅地あり

一ふぐせからし耳系ともよ不殘下坪へ堅系ハ引通
す本機ハ不殘上坪へ引通あり

一踏竹へ綾取の系と付るあり不台板と附るあり

二の本を二のふぐせ二のからしハ一の踏竹と附る五
の本けと五のふぐせ一のからしハ四の踏竹へ附る三の
本機三のふぐせ一のからしハ二の踏竹六の本を六の
ふぐせ二のからしハ五の踏竹四の本を六のふぐせ二の

からとハ三の踏竹一の本機一のふぐせ一のからとハ六の踏竹は附る片足よて一二三は五六と順よ踏べ一尚つ徳あり

綺織方

一 箴一目の豎糸四本入る之是を四入と云上糸二本 下糸二本外のからと糸一本入て都合一目へ五本入るあり地合ハ平綾之先右之方より糸を差初め下糸と二本一同は一の本を三引通し夫より一のふぐせへ引通し外の本機伏機へ引通すよ不及あり次は上糸と二本一目は二の本を二のふぐせへ通し残りの一本のからと糸とは一のからとの綾へ引通あり是よて箴の一目の豎糸引通し終る箴二目以下箴よもよても仕方略如此

一本機四枚目糸本を二枚伏機四枚からと糸ふぐせ二枚合て綾糸十二枚有之尤二所は分ち上糸下糸

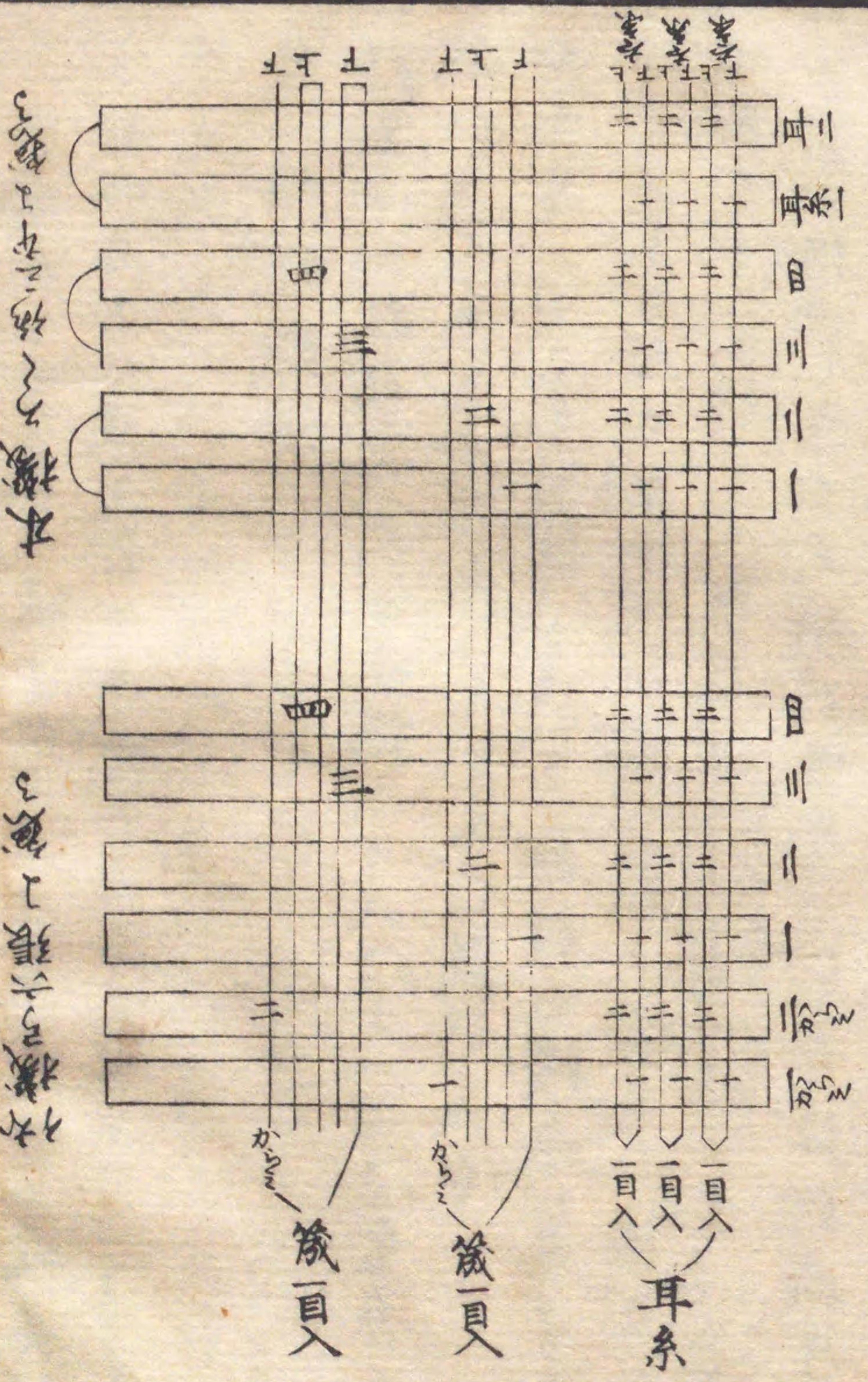
とつるあり綾糸の下へ麻糸を付を踏竹へ踏附る竹の踏方は随ひ綾こうる織ちの綾糸とふぐせと云りよて釣る後の綾糸と本機と云ろく強は然て釣るあり經る豎糸と巻く本と膝と云本綿機と遠ひ經たる糸と糸と先膝へ巻て夫より綾糸へ通して後は又箴へ通す之夫より織ならら巻本とはおきと云箴へ通し糸の端をつま本へ糊付して上より紙をて張り乾上て糸の不動時は織始るあり右本機上糸下糸はかきらひこまの上坪へ豎糸と通し伏機上糸下糸はかきらひこまの下坪へ引通すへ何機もても綾糸の通方は如此あり

一 踏竹六本内四本ハ地糸二本ハ耳糸と竹あり一の本機ふぐせハ一の踏竹へ附る二の本をふぐせハ二の

踏竹三の本機ふくせハ三の踏竹にの本機ふくせハ四
の踏竹之耳系本もこの一の下系とバ一の耳系竹へ
付る耳系本機の上系とバ二の耳系竹へ付る一の
つらと系の下系とバ耳系の一の踏竹へ付又三の踏
竹へも附並あり 二のからこの上系ハ耳系二の踏竹と
地登の二の踏竹へ附るあり

一踏竹の踏方ハ一三の踏竹を並置して一月は三四すも
踏下け綾あぐらのあり並置横柄と投通し箴と付
夫より一三の竹と足とおろしある一の耳系よりと
踏むは時花構りて通系と引之繪ぬきの横系の柄と
投げ並置箴も附る又二四と並置して踏む柄と投通
し箴と付附るあり夫より二四の竹と申るは二の耳
系竹斗りふと花構りて綾と引柄と投通し箴と

附るあり箴も如びして織るべし但し一の踏竹より
四の竹ハ地合と織て花紋とハ不織あり 両端のからこの
附る耳系竹と踏時をり花紋と織と知べし



右後糸へ堅糸く通方之着る耳糸通方本錦倭錦如
如世耳糸ハ後三日ハ糸錦ハ耳糸歳二日もするあり

倭錦織方

- 一 後糸十二枚歳一尺五寸幅二十八より一日又堅糸三本
入から糸まく地糸よてからむ踏竹九本
- 一 おも耳さ一方本錦と日一花紋の横糸ハ蚕より取
しる生糸を七本揃て上げ獲へたり焼りて染るたり
を糊まし不捻して糸ハ何機も本糸の糸とおもく云地の両
一 堅糸ハ捻りて煉るハ横の地糸ハ六七本位引拵の生糸
あり横糸は捻糸と用ひれば地合すさ裏の色見ぢる
ぬは捻ざる糸と用ひゆるあり
- 一 花紋の横糸六色あれば六挺拵と通すまらハ横経六つ

拾て一杆まらでハ不織ありを造作るま物ハ六通り
横経と拾ハ地も六通り織れるあり

一本機ふくせより踏竹へ糸附るるハ中三本の本機
と両眼の踏竹一日は不成極よ附べー混雑する拵
附てハ織れざるありは傳あり

一 地合ハ堅地ありを地糸の横と織り花機よて紋と引
花紋の色糸と織るま時ハ踏竹一本踏さけて拵と
投る尚は傳あり

衾錦織方

一 歳一寸よ羽敷三十枚位ひ通くあり入用糸たけ織る
堅糸諸捻糸て後一日ハ片糸と入るまの表の如小
堅糸足えぬよ小よ横糸と込て織へー横糸と法捻るて
織る紋からハ下繕と紙小虫て堅糸の裏より押付

彩色は其色の横糸にて一糸宛葉沓を作る如くは
めり付るに時く地横も豎の糸位は四ツ目より五
さすなり横糸絞と纏てつまきと織るに

一袖織ハ横糸緒拾りて至て紐あり込なり箴三こお込
ぐとさぬ鉄篦にてお込へ

一綾糸ハ本機を伏機六枚あり箴一目ハ二本ツ入綾
糸ハ糸一本ツ通す踏竹二本一の竹ハ一二三のあぐせ
と付二の竹ハ四五六のあぐせと附る踏方ハ片足にて
竹一本ツ踏へ

緞子織方

一箴ハ幅一尺六寸三十より一目は豎糸五本入から糸
ま一耳糸ハ八目より綾五二十枚踏竹十本あり

一横糸ハ生すか五本位引採の糸を煉て織る時ハ四本位

捻りて煉るへ引採とまハよりま一の糸のことあり
上品の物の豎糸ハ煉り横糸ハ生糸と織るに下品
の物ハ横糸も煉るあり

一糸ハ雙に十と立五かり糸て一よと成るあり徑
方のめや糸ハ錦二付

一耳糸ハ箴一目は二本ツ八目あり綾糸ハ本機斗り
へ通す糸一本ツ綾糸へ入る一の木づへ一の下系二

の木づへ一の上系三の木づへ一の上系四の木づへ一
の下系五の木づへ一の上系六の木づへ箴二ツ目の一の

下系七の木づへ二ツ目の上系八の木機へ二ツ目の上系
九の木機へ二ツ目の下系十の木機へ二ツ目の下系と通

すあり三ツ目四ツ目五ツ目六ツ目七ツ目八ツ目皆是の例
と知べし

一 踏竹附方一の竹へ本づきの一ふぐせの七と附る二の竹へ
三の本づきの九のふぐせ三の竹へ五の本づきの一ふぐせの
竹へ二の本づきの五のふぐせ五の竹へ二の本づきの五のふぐせ
六の竹へ六の本づきの二のふぐせ七の竹へ八の本づきの二のふ
ぐせ八の竹へ十の本づきの六のふぐせ九の竹へ七の本づきの
八のふぐせ十の竹へ九の本づきの十のふぐせと踏附きあり
一 踏竹踏方ハ一六二七三八四九五十と二本宛両足して踏
むあり

厚板織方

一 笠系二本揃うて四入之綾糸へハ二本宛通すたふハ箴
五すうて十よきの時ハ一寸ニ付八十枚あり幅五すうて箴
目枚四百あるが綾糸も一枚又四百すう掛るハ本機
の二枚合て八百筋ふぐせ二枚合せて八百筋但し二枚

織うてハ綾糸込れ四枚ツ分てハ枚織能ければハ枚よてハ
乃具敷多く織方と初んよと終らハ一枚又二枚うて
箴目とわらくすれハ綾糸込れ不合箴目わらくふても
笠系若く仕立れば箴目細くす細笠よりも地合返て
よく又綾糸と極細よすれハ込れ合ても織より右付箴
目縁尺よて一寸ニ付七十枚より箴一寸よ付七十枚よ
て笠系ハ繭ハツ附位の糸と四本より小てより一是繭三
十二附とあるあり依之繭十附の糸ハ三本揃うて良
からミ糸ハ捻き生糸よて大概桃色よ際て用いべ
を地合何色ふてもからミハ桃色よとんじべ一但一本
糸のよりま一極上の細き糸よあらざれば糸切る織
方綾と引時ハ細き糸と二本よりよして用るハ捻る
糸生糸よてハ切走よる時より戻りて笠系よかきまり滞る

柄は生糸をもよく湯煮せしめて用ひるあり又米ぬらの
絞出しうて右糸煮るもよきあり只捻の度らぬぬめりよ
煮るるありから糸へ成だけ細さと用ひるき時ハ繪貫
く上とあめて織かくすあり又繪貫をくすれハから
糸少しをりても不若織方もよ安す

一大凡の仕立を記す箴指する時ハ糸数と改心へハ箴幅八
寸六分此を織幅耳ともよ八寸よあるあり箴幅一寸
二付七十枚立うて二十二よと半此目数九百目宛あり但
耳糸ともめや五本を織内八寸六分一投糸の枚九
百筋三枚あぐせ糸数目十二枚是よから糸一目
一本宛入るから登九百筋是と綾糸二枚よ織る
れから綾糸ハ一枚四百五十本宛之を立の時伏織弓
四挺うして二本の弓ハ地登のふくせよ附二本の弓ハ

からこのふくせに付本をさハるゝ毎一本を綾糸二枚
附あり

繪貫糸ハ捻のなきと良とす若捻たる糸と合せる時
ハ細き糸と澤山合せて織る積りあり

地登白茶色の時ハ繪貫熱紋黒よして色さハ淺黄
紫濃き繭黄子種色ると飛くよハ金糸ハ又ハ平金
箔もよ

地色花色の時ハ繪貫白茶と熱紋ふして色さハ
鬚子種黄糸の縁りまるとよハ金糸のかきりよ
濃き金糸の糸まともよきあり

地登ハ常の通り下の藤^{よきま}は巻きからその登糸ハあよ
上よ巻き但向ハ低くとも中程うてから登ハ常よ
口のあくやど揚て垂あり

一惣織物之堅糸糊の仕方堅糸百目より付水五六合入の
 酢を二ツ柳のり三匁葛粉を五ト銀をやうふ等分小
 して白熾大豆粒粒一ッ入様油又あらあら但あらあらハ
ゆき油
 右油ハ小蛤を二ツ程入て煮立一処へ入て暫時焼る
 夫よりおろし冷てあやうふの粉十匁程入る但し蕨の粉
 ともよろし堅糸へ付るに附方ハ竹へ掛ともよくあり
 一惣糸の織物横糸糊の仕方柳ふのりあやうふ葛粉右三
 匁等分又焼けてこくびの粉を入糸へ揉附絞リ横竹にて
 煮きあらり干し上る也

光絹織方

一箴ハ二十五よき一目へ堅糸四本へ横五ふぐせ二枚之横
 糸も四本よて織るを蚕六ツ七ツ附位の引搦の糸を用也
 但し平綾あり絹機よて織る時は綾五掛緒よてよき箴

柄ハ二百目位

素細織方

一箴二十二よき箴柄ハ三百口五十目位光絹より糸二
 三段も右く引く箴一目へ堅糸四本入横糸ハ八本よて
 織るを平綾あり其外光絹と曰く

諸繒織方并絹

一箴ハ二十三四よき箴柄二百三四十目堅糸ハ光絹より少
 し右く引べし箴一目へ四本入横糸ハ四本よて織る
 其外如前又常の絹ハ箴一目へ二本入し平綾あり堅
 糸繭七ツハツ附也

一右之糸絹煉方ハ早稻藁コセの灰又ハ桑本の灰を用り
 又櫻本の灰もよし掛緒拵方ハ本機ふぐせの掛糸よ

曰く

綸子織方

一 箴幅一尺四寸三十よきふして一目へ一本さ一の四ッ
入あり糸数は本入る粗一から糸ま一を生糸之耳
糸八目位之

一 糸ハ向さ銀の能き糸よて極上の糸と用也 堅横とも
小生糸之横ハ三本引揃よて織る之織裏が表よ成と
知べし織終て煉るよ藁灰と用也 尤めくの加減よ
に巧めり

一 耳糸ハ五本位引揃のきさ糸と用申惣て何の機よ
ても耳糸ハ考くするあり

一 綾五十六枚 本機ハ枚 踏竹八本別よ一本休竹あり一の
竹よ一の本機六のふぐせ二の竹よ二の本む一のふぐ
せ三の竹よ七の本む二のふぐせ四の竹よ二の本む三のふ

ぐせ五の竹よ五の本む二のふぐせ六の竹よ八の本む
五のふぐせ七の竹よ三の本む八のふぐせ八の竹よ六
本む三のふぐせ踏方ハ片足よて一本ツ順よふむあり
一 耳糸ハ一目ハ一の糸本機ふぐせ次の糸ハ三の本機ふぐ
通ひ二目の一の糸ハ五の本むとふぐせ次の糸ハ七の本む
ふぐせ通ひ三ツ目の一の糸ハ二の本むとふぐせ次の糸ハ
四の本むとふぐせ四ツ目の一の糸ハ六の本むとふぐせ次
の糸ハ八の本むとふぐせ通すあり 尤右目一

一 紋ハ一目掛と云又二目掛と云あり又一目半掛とりよて
紋模様次第ありを一目掛と云ハ箴目ハ本めれハ四本
八本めれハ八本すくふあり二目又一目半右よ唯一て可知

縷紗織方

一 箴幅二尺三寸五十よき糸ハ四ッ入め九枚踏竹

に本あり

一 望糸へ生糸をて経て糊せ引之糊の仕方ハ白米と水
 と浸し換て縮條をて漉したるの粉一升ありハ
 口合とのりも焼りわけ残る六合と焼りたるのりも加へ
 米砂と差菜種油とて加減として糸を付るあり
 此加減は口傳あり

一 横糸ハすが二本位と一本と拾り用目拾方ハ右拾左
 拾も多てよるあり織時ハ右拾りの糸と二拵織り次
 左拾の糸と二拵織り糸ハ尤生糸也

一 踏竹のふま方ハ両足もて一三二口と踏む
 一 織上て糊氣とぬき灰あてて焼りて漂るあり糊扱方ハ
 湯へ浸し揉きて扱事あり口傳あり

一 機より織下りの時ハ志がせと干上て後志が出よ口傳あり

一 糊は大方酢を入れハ糸ふらぬ油とさせ糸をりら
 うふる生粉を入れハのりのねむり氣とよるあり
 是合方のぬぬすれハ以て糸と得えしと其加減ある
 べきあり

一 二尺三寸幅は織り上げとがと付れハ二尺幅と成る
 是ハ其の幅の考とすべきあり

一 縞縞紗ハ二尺三寸幅は織り上げ二尺一寸のサ
 肉を位よつまると可知む縞りめんハ生糸と拾りま
 り焼り上げ漂て糊として機は仕まるこ横糸も
 口傳あり

風織縞紗織方

一 四拵返しと云右拾糸左拾糸二拵宛四拵織り又
 拾り不愈糸と四拵織り初と返るあり

一四ツ入ハ丁篋立五五返リ位ニ經之但一目祀二廿八
目方きき物五十よきと云はれ大ききあるかるき物五十
一よき位と云はれ細きと云はれ煉て出るあり

一ちりめん横ハ二本位より四本位一疋付四ツ入堅横ガ
糸目方三百三十三目位有之より堅ハ百二十目位ちり
めんを六百目位一ツ入横ニ本より位四ツ入三本位四
五本位

一月堅糸目方ハ一疋百三十三目より百六十目位迄
一綿紗志月と云はれ捧へ巻蕙籠の如く成箱へ入ふじ
暫時垂てぬ出せハ乾てぬが出る也

天鵝絨織方

一歳ハ並の織物より粗と厚くよきと荒くす大九曲
尺二尺三寸幅の織るも二十二寸より二十六よき

と限りと云通例二十によきと用は中糸と織るあり二
十六よきハ極品と織るより用はあり歳一目ハ二本入
耳糸もハ糸ハ四ツ入其外ハ如常地合ハ襦子地とて
耳ハ綾地あり歳柄ハ八九百目位と用は

一地綾糸は枚毛糸綾糸二枚都合六枚よりして不殘
弓又仕をて織るより枚よりわき地綾糸ハ枚より
下臺へ堅糸と通一毛糸綾糸ハ二枚ともつがひへ
糸と通あり綾糸ハ堅糸通方ハ一の綾糸ハ一の糸二
の綾糸ハ一の糸二の糸三の綾糸ハ二の糸三の糸ハ
の綾糸ハ一の糸ハの糸と通一織柄の方ハ毛糸の綾
糸二枚あり

一毛糸ハ歳一目ハ二本より乃至六本迄入るも通例は
本へて中糸の物と織るあり但一糸ハ並すが二本合せ

一 煉り羽田漆ハ煉て後漆てもより一又練まらぬ漆むるこ
 一 地登系ハ生毛の一斗系せ羽田合せ系ハ不羽之極之
 並毛よりハ細き糸並毛がよりハ蚕六ツセツも多く附る
 外の織物ハ生系せ羽と引とも大凡半練或ハ素黄
 として羽ゆるあり 天鵝絨の地合よかより一切不練
 其後漆て纏るあり

一 登系ハ捻強きハ弱くして力のつよき系と撰
 あり上州麻橋遠より出る系ハ上品よわくは奥州福
 嶋より系も不冝之奥州南郡より出る系と京師
 杯よりハ多く羽申と云然之極上の糸と云ハ飛弾小
 結田郡より出る系なり然も多く系不出仍て南郡
 の糸と大概上として羽申るあり
 一 諸玉より京師へ糸出る所と大凡軍く所とあるは

近の因より出る糸と濱系と云美濃因より出る糸と
 それハ云縹子と羽て極上の糸なりと云 飛弾
 國より出る糸と香山と云又増田と云是ハ天鵝絨
 又羽て極品と云加賀國より出せ白糸と云上州麻
 橋より出る糸と云い摺とも又むす糸とも云甲州より
 出ると甲州と云栗州所より出る糸とも押きて
 南郡福系と両名と唱るあり此系天鵝絨と羽て上之
 編し由糸ハ毛糸より羽て上あり縹毛と云あり 紅漆
 として紅不殊漆とむる外の玉の糸ハ紅漆の漆
 付懸し

一 毛系長五丈位ハ綿鉄の大小より毛糸の経尺長
 經あるべし
 一 中の糸より大凡系積地登系惣目三十目耳系惣目

織成集編四

三

十五目横糸 惣目三十口五女位 毛糸 惣目百廿目

一織り上り 絲又一丈一尺五寸 以経又一丈三尺 あり

此積とひて織つよりと可知

一踏竹五本へ 綾五附方ハ 丸方ヤ 紳と定む一の竹へ 四

の綾五二の竹へ 三の綾五三の竹へ 二のわやとり 四の竹へ

一の綾五を附る 但一織部の方より 毛糸の綾五二投あり

ハ 踏竹を 地糸の踏竹の 四の竹の 次より 一かめる 小毛糸 綾

丸の一と二と附る

一踏竹踏方ハ 組糸を糸二投打りて 織る 丸より 初り毛

糸の踏竹と地糸の一の竹と踏て 細き糸一付右へ 並又

丸より 地糸の二の竹と並む 右糸一付次より 右の方より

毛糸と地糸の三と並む 右糸一付次より 地糸に 半共より 踏

織部 織の 織と通す 諸右の方 毛糸と地糸の三と踏 細糸一付

丸の方より 地糸に 並む 右糸一付次より 毛糸と地糸の一と

右糸一付 地糸に 本を踏りて 金の手と通す 如此 織部を

織る あり 但一線鉄と通したる ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

べーハ 細ぬきハ 同口へ 二度織ると 細ぬきハ 並の すが二

本又一本よりともより 右ぬきハ 並すが 本又ハ 五六本位

あり口 傳あり

一織上て 小刀より 金の上と 切れハ 毛糸切ると あり 毛

糸切ると 用由り 竹ハ 箸よりともより 金と ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと ぬきと

可 細あり

一金花山 織ハ 天鶴織の 仕立より 毛糸と 下へ 附紋を 足

花 揚りて 引さ 紋の ぬきと ぬきと 金と 織り 入る あり 地糸ハ

松り 金糸と 織る 天鶴織ハ 三付織れとも 金花山ハ 二付織り

尚ハ 傳

羅織方

一 鯨尺一尺一寸幅の歳十六よりより十五より歳柄ハ二
百目位あり

一 地合ハ平綾ふして歳一目ハ生糸四ッ入すぐ一本綾糸ハ

二本ツ引通す向の経めや斗り一本ツよ成る横糸ハ

五本より十に五本逆廻ハ葛と角申堅糸ハふのりと角

申

一 ありハ一拵一と一拵又ありハと一拵以上三拵にて平綾

よ成る但しありハと綾糸と只前より下け重なり

一 二と一拵一と一拵ニと一拵此よりす
多あり以上三拵平よあり見

より又前の如く歳度も同く

一 伏機二枚木機二枚尾ハ常は如く仕裁外ハありハ一枚

是ハ上げておろくと下け重く綾糸の糸ハてせら糸乃

如く紡あり見と二本合せたる位よすべし

一 耳糸通方ハなんと織ありむ十目六本合せ三本ツ入

部合三十本入る之ありハと通してあやと成る

一 踊竹六本一の竹よありハ二の竹よ一の綾糸との竹

ハありハ二の竹よ二の綾糸五の竹よ一の綾糸六の竹

よ二の綾糸と附る

一 綾羅ハ本をと二枚ふぐせ二枚外よ二枚合せて六枚

其外よありハあり

紋織方

一 歳ハ鯨尺よと一尺幅十五よと又十によと堅横をきハ

十三よととあり

一 堅糸ハ蚕ハツ附よと一筋二本合せ歳一目ハ六本入る

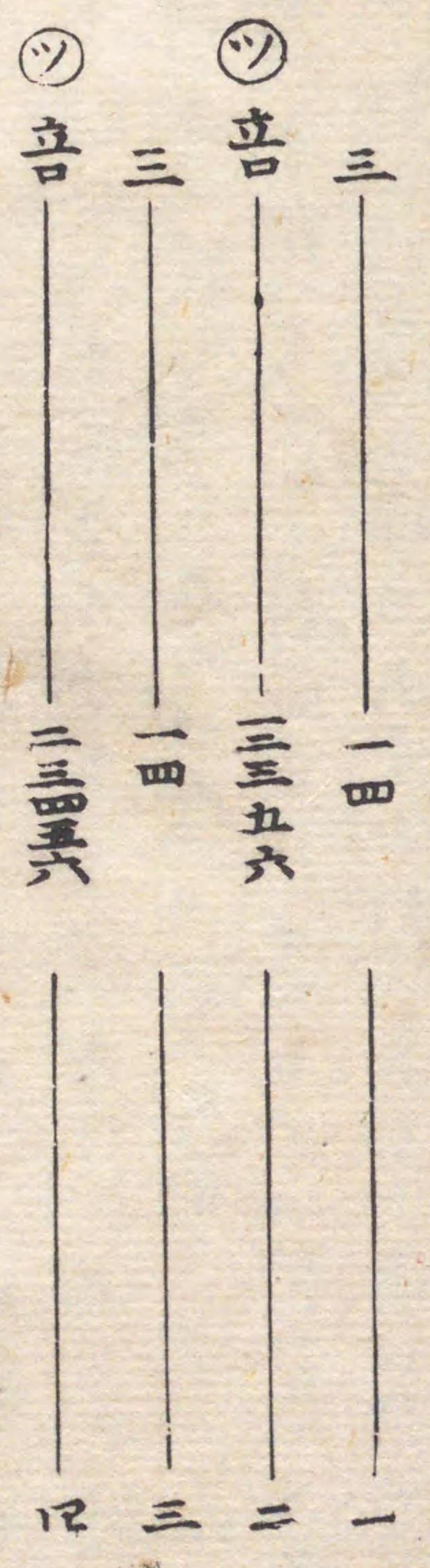
横糸ハ右と糸七八本合よして用也

一 紋紗ハ三枚からとして後互木機ニ枚之又伏機も六枚掛る登糸の通方ハ一二三一二三順ニ通す伏機も四但し箠目へ三本ツ入るゝあるひ後互ハ三の後互へ入たる糸二本ありて通す口傳

一 懸るあるひの後互をる物ハあるひの下せつと云やう故ふ法と即のわるとして知べし立口とハあるひの後互を踏上げる事あり

一 あるひは云ハ向の本機あり上れハあるひの後互返りて上るとあるひはと云右機方より立口一掃あるひ一掃と交せて織る又別の竹より外後互と附垂て踏上げる故よあるひの後互返るゝ踏上げ方ハ口傳

一 踏竹ハ中より附方如左



右踏方ハ一二三口と順ニ踏べし

一 紋ハ花橋より引き紋のあき口の地ハ紗あり 尚糸ハ口傳あり

羅紗織方

一 綿羊の毛と薊り糸と製以然も此獣ハ我邦よまれある物あり又綿羊の飼方毛の切掃ニ習わり口傳とす先ハ必すてハ狐狸の毛と用申其外の獣と用られ

ざるよめり

一糸製方ハ油とぬきしる毛と綿おとす如糸は
 して綿引車にて本糸糸の如く引き糸より白
 湯にてゆでぶびまでゆする之は加減と知るべし
 巻返して干てかくごんの糊と付機と延織る織木
 て唐土にて煮其上とぬるまゆりて毛を幾返も毛の
 出るを揉ありふりゆれするまの雨と張り立て明松
 ごと毛と焼又湯にて揉あり揉め毛出るかくごん煮立て
 糸より引あり
 一箴ハ一寸三十七枚四十位までの箴又一目ハ堅糸一本ハ
 堅ハ諸捻之尤細さかどより横糸ハ片捻あり綾糸
 ハ絹糸之横一寸又五寸ハ五寸り六十位織る
 一毛ヤ本綿糸の如く引出又藤巻にてハ糸一糸おさ
 へて引之村の不出穂又上平又引べきあり尚口伝あり

夏袴地織方

今云仙臺平川越平
 精好平の類あり

一箴幅一尺又一尺一寸位將數耳とも二十一二より
 八百四十あり綾糸四枚とへつがいへぬす面方一
 二口糸組ハ生糸煉糸赤交とさすあり
 一生糸を漂る堅へ至て細く垂七つ附又八つ附位と二
 本捻りてより箴一目ハ二本ツ入
 一編ハ煉糸を一本四本捻りて四つ入あり是ハ絹乃
 めつと依て好まうせて右細あり
 一耳系志まさる三本ツ引拵六本入位あり
 一堅糸箴二本宛入る之右横糸ハ奥州糸を垂十本
 後附る七八本又ハ十本位生糸を漂引拵て織る之
 但織出し其絡の地合と見て横糸ハ右細好次第
 ナベ横糸引拵雙と繰りぬるき湯にて浸し能く

とめく織れハ仙臺平の方なり地合至て平よしとぬり
めり然右の織方ハ至て六ヶ段少く子休らど乾時ハ
横小筋出ると其外たんに場目出る上手の織もよ
わどぎれハ不能なり

織方初んよてハ横糸を布よ包よ槌よと能少利らけ
とめきよ織るなり此地合ハ縮よぬり少く見ある
そのあり

織上て後水張よする時少くふのりを落く入て張
れハとめく横の如く縮の地合能く成まり織幅より
五分程幅つまる物なりとめきよ織る時幅廣く
出来て張上よつまるとぬりよ張りと糊よするハ
刷毛よて引よに傳

川越平ハ衣よ日よ糸細くするなり

一精好平ハ糸く大小厚落わるとりて其外も如前
文

冬袴地織方 柳條 琥珀丹後

一箴ハ復物よ日よ

一堅糸横糸共よ練糸之蚕ハッ附く糸を三本拾りて地
合厚くする時ハ四本拾りて箴へ一目よ四本入にする
綾五の糸救ハ復袴の一倍掛て箴一目の内へ綾四ッ
宛まり綾五四枚通し方ハ一目の四本の糸を一二三
四と順よ通し又次の一目を如以通す之此琥珀柳
條の糸の綾あり

一柳條ハ堅横とも糸至て細く落く織る者横ハ三本
位の引掛あり

一琥珀の横ハ十本と十五本も引掛好の厚きよ織るえ

来冬袴地ハ琥珀袴之丹後も同

一又如夏袴箬一目へ二本宛入縞糸も地糸も同、冬さ
あて二本つ引拵て惣練糸と冬袴地と織るあり

布織方

一麻とうま^{つむぎ}縞てうせよあさと経て箬一目へ一本つ、透
ふのりせける糊せ引よハ藁だこーよと両方共は練揉
やハラけふのりせあませ布の上より拭布の下よりきこ
押すごくあり能付少乾^か櫛^かととく、巻ふのりハ糸の
ひるくま毛バとあさ付箬のあまきよくまるあり

一糊せ引時のあまき^{あまき}糊せして天日よと干たうら
鱗^{うら}へ巻るあり

一罌^{びん}り糸ハ一本あまきとをるこ箬ハ一目さ、ハ織二つハ本
木綿とハ透ハ雪の表の如くよ出来る之罌糸とハかちと

の幸あり綾ハ平綾あり

一布晒^{あび}方藁^{わら}灰^{はい}の灰水とざる漉^こうして清^{しみ}く其俵^{はたけ}垂^たよ
釜の中へ入布と糞^{くそ}あり糞方ハ糞時より取^とり取^とり
とくと糞其俵^{はたけ}型^{かた}乾^かまで並^{なら}せ船^{ふね}布と引上白の中へ
入差^さ流^{なが}三寸程の手杵^てよと口人^{くち}春^{はる}よ突^つきあり木本の
白^{しろ}よてつく米^{こめ}或^{ある}ハ餅^{もち}ま^まとつく程^{ほど}よ強^{つよ}くハ突^つき好^よき
ほとせ見て春^{はる}あまきと洗濯^{せんたく}さぬく如^{ごと}ひよするま^ま五
返^{かへ}程^{ほど}巻^まくハすき出^だく突^つきへハ布^{ぬい}ハ津^つ水^{みづ}よと濁^{にご}の
水の出^でる程^{ほど}よとくと突^つき洗^{せん}ひぬくあり右^{みぎ}の布^{ぬい}と天
日^{あま}よて乾^かまり但^{たゞ}ハ河原^か又^{また}ハ草^{くさ}の上^{うへ}へ引^ひ延^のて干^かく又^{また}土
の上^{うへ}よてもよう晴^は日^ひよ干^か乾^かハ津^つ水^{みづ}と吹^ふ水^{みづ}の如^{ごと}くハ村
あまき水^{みづ}と歩^あはうきよとあてもよく乾^かくハ水^{みづ}歩^あり一^{いち}日
の内^{うち}よ九十返^{かへ}程^{ほど}歩^あ干^か上^あるあり右^{みぎ}の如^{ごと}く干^か上^あ布^{ぬい}よと

ん〜と銚けぬ糊を水にて薄く延布の裏より刷毛にて引干上る如是する時ハ上晒あり 曰して突ことハ生束のわくと抜ため之

本綿織方

一本綿機にて織る貫を引杆と歩次と箴と歩付次小弓と引又貫を引杆と歩次と箴と歩付を延て織る杆歩するハ耳の揃ふ為あり

一を緒ハ細き本綿糸に節合うて機糊の後ろそ糊を付用申を方ハちら〜あり

糊の仕方ハ粟をせうて用由分料ハ一及二付に掬の中蓋、一ツ糸と一不と煮粟のあんちも煮強り〜時分よ熱水の中よと粟の漉きまで糸とを〜右の水とを〜絞り上又とくと糸と揉と糊の粘とたき出〜釣干〜

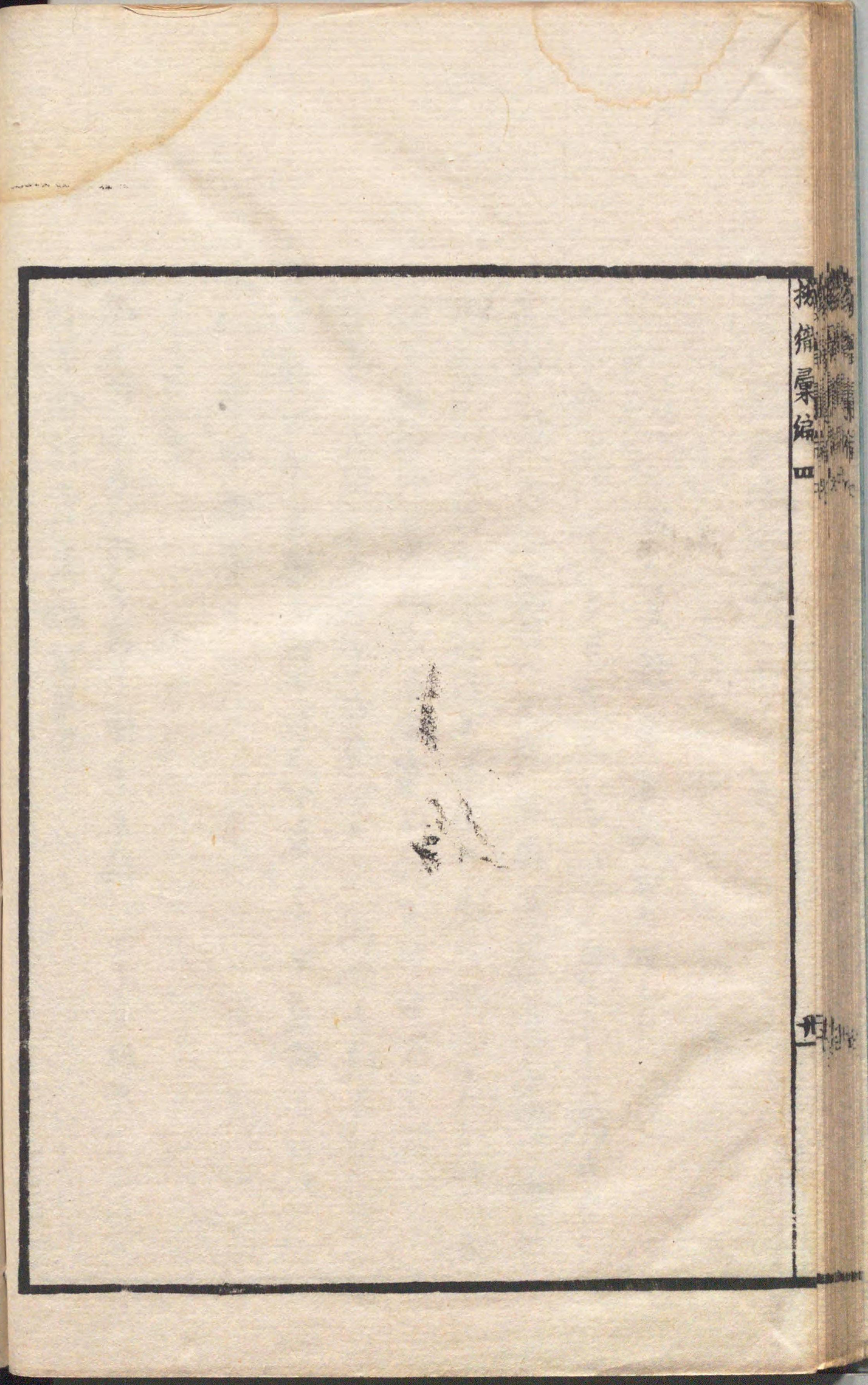
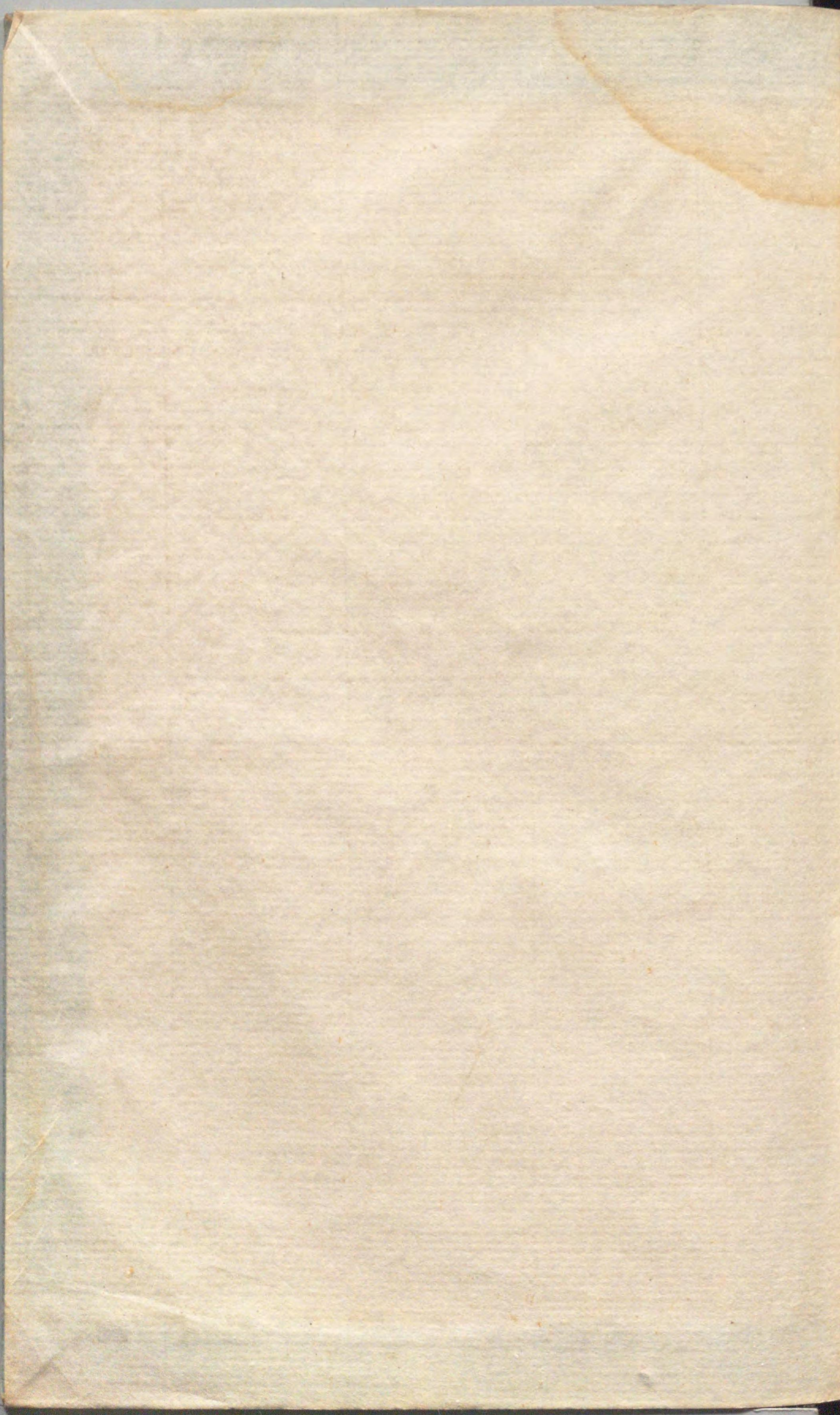
はす但信ハ米糊を羽也

織上げ晒方ハ布と同一但〜本綿ハ〜上げ専 きぬとるてホベ〜

葛布織方

葛藤と半夏過と取りたるを良しす半夏茹と乾たるハ艶〜と〜も弱〜右葛かつらと結き乾と切釜ハ鍋と湯と入煮立て色の要る時分とお湯と湯より取り出〜一夜土中へねせ並けハ上皮ベ〜と〜成る其煎水よハ洗ひ濯けハ上皮の悪きハ取きて麻と剥たる如〜成と針うてさき糸〜してむ〜管う〜て織るあり
ひ〜管〜糸の
内より引と云 織方ハ平綾とて本綿地の如〜

機織彙編卷之四終



補遺編
四

四

